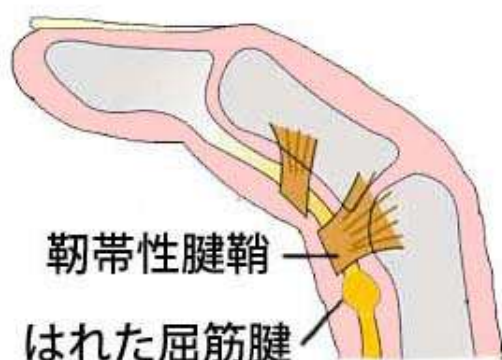


ばね指

指の曲げ伸ばしの時に引っかかる感じがしたり、バネのように指がはねたりする病気です。その際、痛みも伴います。放置すると、PIP 関節（第 2 関節）が固くなって伸びなくなります。

指を曲げる腱がはれて、腱鞘という組織をスムーズに動けなくなるのが原因です。

治療としては、局所安静、外用薬、トリアムシロンというステロイド剤の注射などをおこないます。ステロイド注射は打ち過ぎると腱や腱鞘が弱くなるので、3、4 回注射しても治らない場合は腱鞘切開という手術を行います。外来手術で 15 分程度の手術です。



ばね指の病態（親指）。指を曲げる腱がはれて、腱鞘を通りにくくなっています。

手根管症候群

手がしびれたり、痛んだりする病気です。親指から薬指にかけてしびれること多く、明け方や、手を使いすぎた後などに症状が出やすいのが特徴です。男性より女性に多く発症します。症状が進むとさわったときの感覚がなくなったり、親指の付け根の筋肉がやせて物がつかみにくくなったりします。正中神経という手の神経が何らかの原因で手のひらの根もとで圧迫を受けることにより発症します。

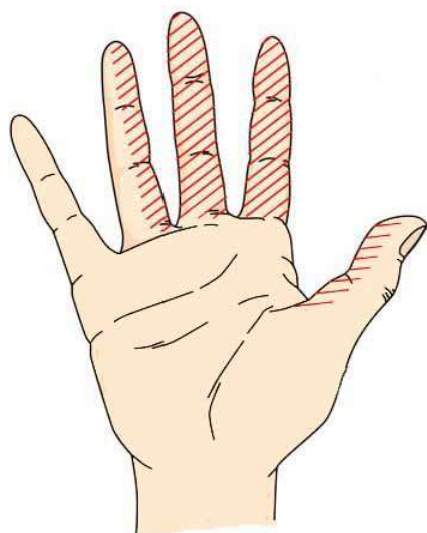
手根管症候群には、原因のはっきりしない特発性手根管症候群のほか、手の使い過ぎや、手首の骨折に伴うもの、妊娠時に発症するもの、腎不全で血液透析をしている人に発症するものなどがあります。

診断には、診察のほかに筋電図という精密検査を行ないます。

治療は、安静が第一で、程度が軽い場合は飲み薬で様子を見ます。薬で治らな

い場合や筋肉がやせてきた場合は手術を行いません。手術には、手のひらの根元を切開して神経を圧迫している靭帯を切離する方法と、関節鏡という道具を使って小さな切開で靭帯を切離する方法があります。

手のしびれは、手根管症候群以外にも、頸椎の病気などいろいろな原因で生じるので、専門化にみてもらう必要があります。



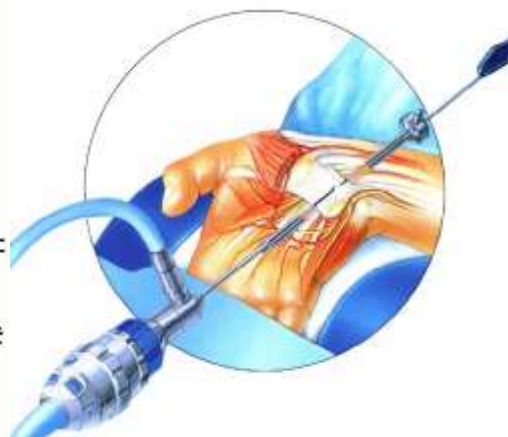
手根管症候群のしびれの範囲（斜線）



親指の付け根の筋肉が痩せて（矢印）、指先で物がつかみみにくくなった状態。



手掌切開による手根管開放術

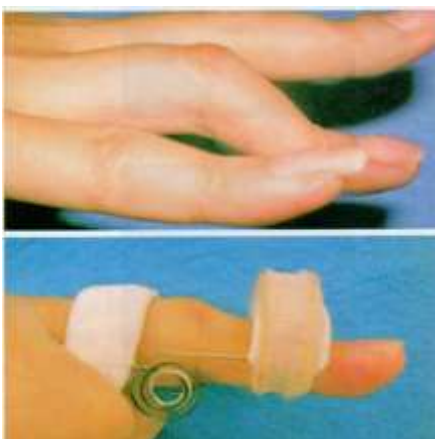


鏡視下手根管開放術

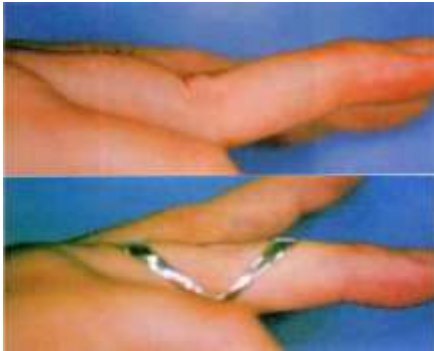
リウマチの手

リウマチは徐々に進行するため、いつの間にか指が変形して使いにくくなってしまいます。不自由さに慣れてしまって、治療の機会を逃してしまうこともしばしばです。また、腱が突然切れて指が伸びなくなってしまう状態（伸筋腱断裂といいます）も時々発生します。伸筋腱断裂は通常小指側から始まって、親指側の指の腱も次第に断裂していきます。

リウマチの手の変形や機能障害は患者さんによってまちまちなので、それぞれの状態に応じて治療法を選択します。薬物療法により、リウマチ全体のコントロールを行うことが第一です。初期の指の変形には装具療法などで対処します。



ボタンホール変形（上）と、カペナー装具（下）



スワンネック変形（上）と、指輪型装具（下）。

変形が高度になると、人工指関節置換術、関節固定術などを選択します。



リウマチの尺側偏位の変形。手術する前の状態。



人工指関節による手術。X線写真（左）と術後の手の状態（右）

伸筋腱断裂が生じた場合は早めに手術的治療を行って、機能を再建するとともに将来的な断裂を予防する必要があります。断裂の原因となる手関節に対して

はソーベ・カパンジー法という手関節形成術を行い、切れた腱に対しては腱移行術を行います。



伸筋腱が断裂し小指が伸びなくなった状態



腱移行を行って、指が伸びるようになった状態

橈骨遠位端骨折

手をついて転んだときに生じる手首の骨折です。高齢者に多く発生します。

骨折のずれを放っておくと、手の機能障害を生じるため、早期に専門医を受診する必要があります。

まず伝達麻酔という麻酔で痛みを取ってから、骨折のずれを直し、ギプスシーネで固定します。骨折が関節に及んでいる場合や、ギプスの中でずれてくる場合は手術を行います。手術は掌側ロックングプレートという材料で固定するのが標準的手術法です。

橈骨遠位端骨折は骨粗鬆症に伴って発症することが多いので、手首の骨折をされた方は一度、骨密度測定を受けておくことをお勧めします。



橈骨遠位端骨折 矢印のところで骨折している



プレートによる手術後の X 線写真

デュピイトラン拘縮

デュピイトラン拘縮は特別の原因がないのに手の指が徐々に曲がってのばせなくなる病気です。中年以降の男性に多く、小指や薬指に多く発生します。曲がり方がひどくなると、顔を洗ったりするのも不自由になります。指の変形がある程度以上になった場合は、手術治療を行います。皮膚の下にある病的な腱膜を切除します。



デュピイトラン拘縮の指

切らずに治す注射療法

デュピイトラン拘縮に対する注射療法が保険診療として認可されました。手

術で病的腱膜を切除する代わりに、コラゲナーゼという薬を注射することにより病的組織を溶かして治療する方法です。この治療法は、認定を受けた手の専門医だけが行うことができ、当院で治療を受けることが可能です。詳しくは、当院の手外科専門外来を受診してご相談ください。



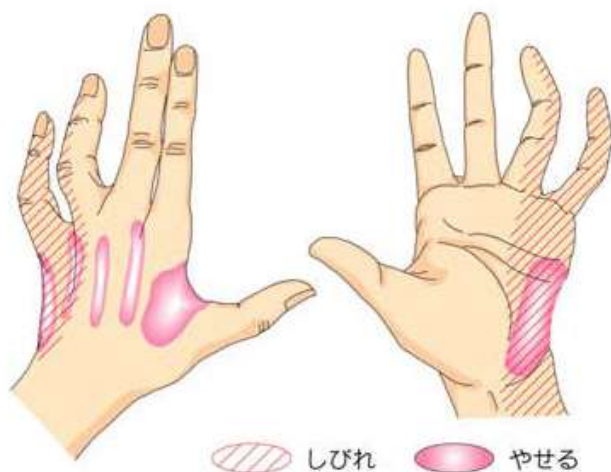
肘部管症候群

手の小指側がしびれたり、指の細かい動作がしにくくなったりする病気です。進行すると、手の筋肉がやせたり、鷲手変形という手の変形を生じます。

尺骨神経という神経が肘の内側の部分で障害されることにより生じます。その原因には、変形性肘関節症、小児期の肘の骨折、ガングリオンなどいろいろなものがあります。

診断には診察のほか、X線撮影や筋電図検査を行います。

肘部管症候群と診断された場合は通常手術的治療が行われます。神経の再生スピードは非常にゆっくりしているため、指機能の回復には時間がかかります。



肘部管症候群の手の症状

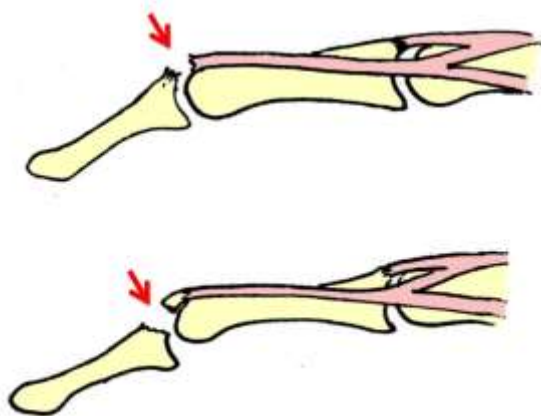
つき指

ボールなどぶつけて指をいためた場合を一般に「つき指」と呼んでいます。単なる打撲や捻挫の他に、骨折や、腱・靭帯が切れている場合があります。指の変形がある場合、腫れや痛みが強い場合や、なかなか症状が取れない場合は専門医を受診する必要があります。

指の第1関節（DIP 関節）が曲がったまま伸びなくなっている状態を「**つち指槌指**）」と言います。腱が切れている場合と、骨折している場合があります。腱が切れている場合は通常あてもので治療します。骨折している場合は鋼線で骨折を固定する手術を行います。



槌指変形



つち指変形 腱が切れた時（上）と骨が折れた時（下）



腱断裂に対する指ギプス



骨折によるつち指の X 線写真（矢印が骨折部）



鋼線による手術の写真